

第4回4者協議閣僚級会合：岸田外務大臣スピーチ

平成25年7月25日

中東第一課

(冒頭)

- 「平和と繁栄の回廊」構想，第4回4者協議閣僚級会合を開始するに当たり，一言，御挨拶申し上げます。
- 2006年，当時の小泉総理がこの地を訪問し，「平和の配当」を人々にもたらし，当事者間の信頼醸成を促進するための中長期的な取組として，「平和と繁栄の回廊」構想を提唱してから，ちょうど7年が経ちました。
- その間，中東地域は未曾有の政治的変動を経験し，中東和平プロセスは長らく停滞してきました。しかし，「平和と繁栄の回廊」構想の下で，ここに集まった4者は，一貫してパレスチナ経済の発展に取り組んできました。
- そうした地道な努力を積み重ね，本日，4者の閣僚が5年ぶりに一堂に会し，この構想の更なる進展に向けて決意を新たにすることはこの上ない喜びです。
- 本日の会合の開催及びその成果が，和平実現を希求する国際社会の全ての関係者に前向きな光を示すことができると確信しています。

(ジェリコ農産加工団地及び新たな協力の検討)

- 「平和と繁栄の回廊」構想の旗艦プロジェクトであるジェリコ農産加工団地（JAIP：ジャイプ）は，西岸の労働人口の1%を超える7000人の雇用を生み，家族

を含めて2～3万人が裨益する大きなプロジェクトです。

- これまで、4者は、JAIPの進展のために忍耐強く取り組んできました。日本は、その中で、道路、太陽光発電施設、上下水道、管理棟などのインフラの整備と共に、技術協力による人づくりも積極的に支援してきました。
- その結果、JAIPは生産活動開始まであと一步の所まで辿り着きました。すでに、24の企業が入居意思を示し、そのうち数社が入居契約完了、または契約をしようとしていると伺っており、大変嬉しく思います。
- これら企業が、デーツ、乳製品、ハーブ等、製品化された農産物を西岸及びヨルダン、更には、湾岸諸国等へ販路を拡大していくこともそう遠い未来の話ではないでしょう。
- これに加え、JAIPの可能性を更に広げるべく、本年2月に立ち上げたCEAPAD（シーパッド）の枠組みにおいて、東アジア諸国のJAIPへの参加を促していきます。また、先般、サウジアラビア、UAE、トルコを訪問した安倍総理からも、各国指導者にJAIPへの投資を呼びかけました。
- 一方JAIPは未だ道半ばです。今月初めの事務レベル会合で今後の対応を整理しましたが、最終段階まで4者が一層協力して合意事項の早期実施等に取り組む必要があり、今日の会議で皆様のコミットメントを確認したいと

思います。

- それを前提として、J A I Pに次ぐ新たな協力の検討を開始したいと思います。例えば、内外の民間投資を誘致しながら観光産業を育成し、将来的には観光客が自由に域内を移動できるような「観光回廊」の創設について、4者で検討していくことを提案いたします。

(おわりに)

- 地域情勢が混沌とする中、中東和平の実現は地域安定化への核となります。そうした認識の下、日本は「二国家解決」の実現に貢献すべく、引き続き地域間協力も活用しながら、パレスチナの経済開発を支援していきます。
- また、我が国は、先般、ケリー米国務長官がイスラエル・パレスチナ間の直接交渉再開の基礎を築くことで合意に達したとの発表を歓迎します。今回の合意を受け、当事者間で真摯な対話と交渉が行われることが重要です。我が国としても引き続き、「平和と繁栄の回廊」構想等の取組を通じ、当事者間の対話や米国の努力を支援していく考えです。
- イスラエルとパレスチナには、こうした貴重な機会を逃さず、交渉再開という勇気ある決断を下してほしい。そうした切なる願いを最後に述べて、私の発言といたします。ご静聴、ありがとうございました。(了)